

## 第3章 合併の施行

### 1 合併施行に向けた準備

#### (1) 事務の移行作業

新発田市・豊浦町合併協定書に基づき、平成15年7月7日の合併施行に向けて、両市町において準備作業が開始された。

合併協議会で協議・承認された約1,000項目の行財政調整方針をはじめ、両市町で行っているすべての事務事業が、スムーズに移行できるよう種々の調整を行った。

作業においては、新発田市と豊浦町の職員相互の協力により、電算システムの統合や書類の整理など、細部にわたる調整が行われた。

特に、条例改正や合併にかかる予算の編成など、議会手続きが必要な事務については留意しながら進められた。

また、豊浦地区の住民生活に急激な変化を来たさぬよう、新たに支所を設置することとしたため、支所で行う業務の範囲や組織については、両市町間で十分検討が行われた。

#### (2) 住民への周知

新発田市と豊浦町では、合併に関する住民への情報提供を十分に行うため、市と町それぞれで、各種広報活動を行った。

##### ① 広報誌、ホームページ

市と町では、それぞれ定期発行している広報誌とホームページに、合併後の制度の変更点や、各種手続きなどを随時掲載し、周知を図った。

##### ② 豊浦支所ガイドブックの発行

豊浦町では、合併前の平成15年3月に、合併後の行政サービスの変更点や、支所で扱う業務などをまとめた「豊浦支所ガイドブック」を発行し、町内全世帯へ配布した。

##### ③ 新発田市暮らしのガイドの全面改訂

新発田市の「暮らしのガイド」を、豊浦町との合併を機に全面的に改訂し、合併直後、市内全世帯へ配布した。

### (3) 公共的団体統合への働きかけ

両市町にある公共的団体については、行政と深く関わり合い、地域の発展と住民福祉の向上に寄与する活動を続けてきた。

自治体が合併することによって、それぞれの市・町にある同種の団体についても、統合により行政との連携を維持・強化していくことが望ましいことから、新発田市と豊浦町では、合併協議会で承認された行財政調整方針に基づき、市長・町長の連名でそれぞれの団体長宛に文書を送付し、合併を契機に統合へ向けた検討を行っていただくよう要請した。

### (4) 新潟県から新発田市への事務引継ぎ

新発田市と豊浦町の合併施行に伴う、新潟県知事から新発田市長への事務引継ぎが行われ、新潟県から新発田市へ25項目の事務が移管されることとなった。

	分 類	項目数
1	法令・政令・省令に基づく移管事務	10
2	国の要綱、通知等に基づく移管事務	6
3	県の条例に基づく移管事務	9
	計	25

## 2 豊浦町の閉町

豊浦町では、合併により町の歴史を閉じるにあたり、閉町式典など各種事業を実施した。

### (1) 豊浦町閉町記念事業

平成15年6月8日に実施した「とようらまち夢フェスティバル」では、町内外から約2万人が参加し、子どもから高齢者まで楽しめる多彩なアトラクションや催し物で、夜遅くまでにぎわった。

豊浦町閉町記念事業

主催：豊浦町  
協賛：豊浦町商工会、JAとようら農業会

とようらまち  
**夢**  
フェスティバル

つなごう!とよらの心

平成15年 **6/8日**  
12:00～20:30

雨天決行  
天候により、変更の可能性があります。

会場：豊浦町公民館  
真木山中央公園  
豊浦町野球場

入場無料

当日は  
豊浦町内  
無料シャトルバス  
運行

イベントプログラム

- メモリアルオープニング 12:00～12:30
- 豊浦町パネル展 12:30～16:00
- 花田勝トークショー 14:00～15:00
- 東京打撃団 和太鼓コンサート 15:30～16:30
- 雄飛楽隊 アパレンジャーショー ①12:00～12:30 ②17:00～17:30
- 津軽三味線ユニット 弾 16:30～19:30
- ふわふわランド 12:00～19:00
- 高所作業車体験コーナー 12:00～17:00
- メッセージコーナー 12:00～18:00
- 大花火大会 20:00～23:30

とようら牛 まるごと バーベキュー サービス 12:30～16:00

ソフトドリンク サービス 12:30～19:00

果汁 サービス 12:30～19:30

ゲームコーナー 12:00～18:00

飲食コーナー 12:00～20:30

豊浦町民 みんな 集れ!! 大抽選会 12:00～18:00

※大抽選会：とようら牛まるごとバーベキューサービス、ソフトドリンクサービス、果汁サービスに付随して抽選会を開催いたします。

## (2) 豊浦町閉町式典

平成15年6月18日、豊浦町公民館で、豊浦町閉町式典が開催された。式典には新潟県知事、新潟県議会議長、新発田市長をはじめ近隣の市町村長、議会議員などを来賓に迎え、町関係者ら約300人が出席して行われた。

式典は弦楽四重奏が奏でられる中、豊浦町の自然や伝統芸能などを紹介するスライドが上映されたのち、開式した。芹野町長が式辞を述べたあと、新潟県知事をはじめとする来賓の方々から祝辞が寄せられた。

続いて、これまで豊浦町の発展に尽力された方々や、各種団体に対して功労表彰や感謝状と記念品の贈呈が行われた。

その後、豊浦町在住の人間国宝である刀匠 天田昭次氏による閉町記念刀の披露が行われた。

最後に、会場内に掲揚された豊浦町旗を降納し、厳かに式を閉じた。

### 豊浦町閉町式典 次第

#### 前 奏

1	開式のことば	豊浦町助役	渡 辺 武 義
2	式 辞	豊浦町長	芹 野 秀 夫
3	議会議長あいさつ	豊浦町議会議長	伊 藤 久
4	合併経過報告	豊浦町助役	渡 辺 武 義
5	来賓あいさつ	新潟県知事	平 山 征 夫 様
		新潟県議会議長	西 川 勉 様
		新発田市長	片 山 吉 忠 様
		衆議院議員	稲 葉 大 和 様
		北蒲原郡町村会会長	伊 藤 孝 二 郎 様
		北蒲原郡町村議会 議長会会長	石 山 稔 様
6	来賓紹介		
7	表彰状、感謝状贈呈		
8	受賞者代表のことば		
9	閉町記念刀披露		
10	町旗降納		
11	閉式のことば	豊浦町教育長	関 根 信 行



人間国宝 天田昭次氏による閉町記念刀の披露

## 豊浦町閉町式典式辞

豊浦町長 芹野 秀夫

みどり豊かな豊浦の地に、私たちが愛着をもち、先人が築き上げた豊かな自然と、住むことに夢と誇りを感じた豊浦町が、7月7日、新発田市に編入合併する運びとなりました。

本日、誇りある豊浦町を閉じるにあたり、平山新潟県知事、片山新発田市長、近隣市町村長各位をはじめ、かくも多くのご来賓のご臨席を賜り、ここに盛大にかつ厳粛のうちに閉町式典が挙行できますことは、限りない喜びと感謝の気持ちで一杯であります。町民を代表して心からお礼を申し上げます。

本町の歩みを振り返りみますと、昭和30年3月、町村合併促進法の施行に伴い、中浦村と本田村の合併により「豊浦村」が誕生し、昭和48年、町制施行により「豊浦町」が誕生しました。

以来30年、幾多の災禍を乗り越え、美田を引き継ぎ、豊かな風土、多様な文化をはぐくみながら、住みよい町を築いてまいりました。

時あたかも地方分権の流れと共に、市町村合併の気運が高まり、地方公共団体の自己決定権の増加や、財政事情、事務事業の簡素化を鑑み、足腰の強い自治体を創っていくためには、合併は避けて通ることのできない最も重要な課題となりました。

本町のこれまでの事務事業には、多くの諸先輩方のたゆまぬ努力と知恵の結晶、そして町民の皆様方の多大なるご理解とご協力があったから成し得たものであり、感謝とお礼を申し上げる次第です。

豊浦町の合併の動きは、平成4年に、新発田市、豊浦町両議員の研究会から本格的に行われ、平成14年1月推進協議会を設置し、9月には、法定の合併協議会を設立し、今日に至っております。

長年、栄えてきた「豊浦町」という「名」が7月6日をもって、歴史に刻まれます。

最後の豊浦町長として、喜びと同時に一抹の寂しさを覚え、感慨無量であります。

今、豊浦町民は、農業と魅力的な観光レクリエーション基地としての役割を果たしつつ、将来への希望を持ち、生き生きとした活力を発揮し、県北の中核都市・新発田市の発展に尽力することを誓っております。

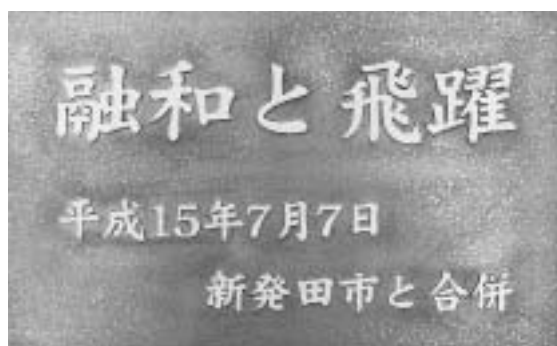
今後、新発田市はもとより各位からの一段と温かいご援助と、豊浦の住民が生きがいを持ち、魅力ある市政発展に力を発揮できるよう、心配りをお願い申し上げ、閉町の式辞と致します。

### (3) 豊浦町閉庁式

平成15年7月4日(金)の業務終了後、豊浦町役場庁舎を閉じる閉庁式が開催された。

式に先立ち、議場において芹野町長、渡辺助役、関根教育長から、それぞれ退任のあいさつが述べられた。その後、町長による役場庁舎の巡視の後、雨の降りしきる中、庁舎前にて閉庁式が行われた。

式では、役場の閉庁を記念して設置された記念碑の除幕、町長、町議会議長のあいさつに続き、豊浦町の「町民憲章」の朗読が行われた。そして、庁舎前に掲げられた豊浦町旗が降納され、しめやかに式を閉じた。



閉庁記念碑



#### 豊浦町役場閉庁式次第

- 1 開 式
- 2 閉庁記念碑除幕
- 3 町長あいさつ
- 4 町議会議長あいさつ
- 5 町民憲章朗読
- 6 町旗降納
- 7 閉 式

#### 豊浦町町民憲章

(平成2年9月1日制定)

- 一、自然を大切にし、緑豊かな、美しい町をつくります。
- 一、働くことに誇りを持ち、活力に満ちた町をつくります。
- 一、教養を高め、若い力を育て、伸びゆく町をつくります。
- 一、思いやりと、感謝の心を持ち、住みよい町をつくります。
- 一、心と体を鍛え、明るくすこやかな町をつくります。

### 3 合併記念事業「七夕・出逢いの物語」

合併を目前に控えた平成15年7月5日、新発田市・豊浦町合併記念事業として「七夕・出逢いの物語」が開催された。このイベントは、両市町の住民の速やかな融和と一体性の確保を目指して行われ、新発田市民と豊浦町民が大勢参加し、合併に向けた気運を盛り上げた。

両市町の小学校児童全員が短冊に願いを書き込み、七夕飾りを作成し、イベント会場となった市内大通りに飾られた。イベント当日は天候にも恵まれ、新発田市と豊浦町の芸能団体が互いに演奏や踊りなどを披露し、夜遅くまでにぎわいをみせた。





七夕に願いを込めて 7月7日(月)

# 新発田市と豊浦町は 合併します



7月5日(土) 午後6時~9時30分

七夕・出逢いの物語

上町パーキング周辺

7月7日(月)

合併記念式典

新発田市民文化会館大ホール



新発田市・豊浦町

## 4 豊浦支所の開所

平成15年7月7日、新発田市と豊浦町の合併の日を迎えた。

当日は、新たに新発田市豊浦庁舎となった旧豊浦町役場を会場に、まず豊浦町長から新発田市長への事務引継ぎが行われた。その後、新発田市特別参与への委嘱状交付と、支所職員に対する辞令交付が行われた。

引き続き、午前8時から庁舎玄関前において豊浦支所の開所式が執り行われ、片山新発田市長、二階堂新発田市議会議長、芹野特別参与によるあいさつとテープカットが行われ、支所の業務がスタートした。



### 豊浦支所開所式 次第

- 1 開式
- 2 市長あいさつ
- 3 テープカット、花火打ち上げ
- 4 市議会議長祝辞
- 5 特別参与あいさつ
- 6 閉式

## 5 合併記念式典

新発田市と豊浦町の合併を記念して、平成15年7月7日の合併当日「新発田市・豊浦町合併記念式典」が新発田市民文化会館で開催された。

式典には、市民・町民代表をはじめ関係者約650人が出席し、新しい新発田市の門出を祝った。

式典は、地元の福祉団体による太鼓演奏で幕を開け、片山新発田市長が式辞を述べた。次に、芹野豊浦町長、二階堂新発田市議会議員、伊藤豊浦町議会議員があいさつをした後、来賓の総務大臣（代理 吉田総務大臣政務官）、平山新潟県知事、稲葉衆議院議員、新潟県議会議員（代理 石井県議会議員）から祝辞が述べられた。

また、市町村合併に特に積極的に取り組んだ者に対しその功績をたたえる「市町村合併功労者総務大臣表彰」が、片山新発田市長、芹野豊浦町長、牛腸前新発田市議会議員、伊藤豊浦町議会議員の4名に贈られ、この式典の中で、吉田総務大臣政務官から表彰状が手渡された。

このあと、石井県議会議員による万歳三唱と芸能披露を行い式を閉じた。

### 合併記念式典 次第

オープニング	豊年太鼓		
1 開 式			
2 式 辞	新発田市長	片山 吉忠	
3 あいさつ	豊浦町長	芹野 秀夫	
	新発田市議会議員	二階堂 馨	
	豊浦町議会議員	伊藤 久	
4 祝 辞	総務大臣	片山 虎之助 様	
	新潟県知事	平山 征夫 様	
	衆議院議員	稲葉 大和 様	
	新潟県議会議員	西川 勉 様	
5 来賓紹介			
6 祝電披露			
7 市町村合併功労者総務大臣表彰			
8 万歳三唱	新潟県議会議員	石井 修 様	
9 芸能披露	よさこいソーラン		
10 閉 式			



オープニング「豊年太鼓」(新発田市手をつなぐ育成会太鼓クラブ)



万歳三唱



芸能披露「よさこいソーラン」(よさこい新発田和っしょい)

## 新発田市・豊浦町合併記念式典式辞

新発田市長 片山 吉忠

新発田市・豊浦町合併記念式典を挙げるにあたり、ごあいさつを申し上げます。

本日は、ご多用のところ、吉田総務大臣政務官様、並びに平山新潟県知事様をはじめ、かくも多くのご来賓の皆様のご臨席を賜り、新発田市・豊浦町合併記念式典を挙げるできまことに、厚く御礼を申し上げます。

また、新発田市・豊浦町両市町の振興を図るため、議員協議会を設立され、合併に向けた協議の礎を築かれました両市町議会議員の皆様、並びに、合併協議会において、熱心にご議論をいただきました委員の皆様、そして、温かいご理解とご支援を賜りました住民の皆様に、心から感謝を申し上げます。

現在、地方行政にあっては、地方分権の推進、少子・高齢化社会や多様化する住民ニーズへの対応など、新たな課題に的確に対処していく必要に迫られており、そのためには、市町村合併により、効率的な財政運営や行政運営を行っていく必要があります。

また、住民の方々にとっては、行政と住民の生活圏の違いから生じる様々な課題の解決が長く望まれており、両市町では、これら諸課題の解決、未来に夢の持てる輝くまちづくりに向けて、住民の立場に立った新たなまちづくりに取り組むことが肝要であるとして、合併の協議を重ねてまいりました。

豊浦町は、全国でも屈指の月岡温泉を有し、芹野町長さんをはじめ、町議会議員、そして住民の皆様方が、先人から受け継いだ豊かな風土の中で、多様な文化を育みながら、「未来をみつめ夢と創造性豊かな町」を築き上げてこられました。そして、本日から新発田市豊浦地区となり、農業振興はもとより、魅力的な観光レクリエーション基地として、新・新発田市の発展に大いに貢献していただけるものと確信致しております。

新発田市は、これまで、下越の行政、産業、教育、福祉の中心都市として発展してまいりましたが、本日、豊浦町民9,800人の皆様をお迎えし、ここに、90,600人の新しい新発田市として、大きな一歩を踏み出すことができましたことは、喜びに堪えないところでございます。

時、折りしも、三度目の維新を迎えると言われております。近代国家への飛躍を目指した明治維新、敗戦から立ち上がった昭和維新、そして、平成維新とまで言われる大変革の今日、幕末の偉人吉田松陰の「志定まれば、気盛んなり」の言葉のように、新しい新発田市を、まさに県北の中心となる、愛せるまち、誇れるまちを、共に創り上げようとの「合併の志」のもと、希望に満ち、活気あふれ、輝けるまち、ふるさとしばたの「まちづくり」を進める決意を、7月7日の七夕という、この良き日にお誓い申し上げますのでございます。

本日ご臨席を賜りましたご来賓の皆様方に、重ねて感謝を申し上げますとともに、新発田市発展のため、今後ともなお一層のご指導とご鞭撻を賜りますよう、お願いを申し上げます。式辞とさせていただきます。

## 新発田市・豊浦町合併記念式典あいさつ

豊浦町長 芹野 秀夫

豊かな自然と、住むことに夢と誇りを感じた豊浦町は、本日、7月7日という記念すべき良き日に新発田市に編入合併する運びとなりました。

この記念すべき式典で、旧豊浦町長として一言ごあいさつ申し上げます。

豊浦町は、先人が築いてくれた美田を引き継ぎ、豊かな風土、多様な文化をはぐくみながら育ててきた歴史と、人と人とがふれあう、住みよい町を築いてまいりました。

今、誇りある豊浦の住民が、合併により、新発田市民の一員として、多面にわたり交流し、共に活躍することとなります。

今後は、将来への夢と希望を持ち、お互いの知恵を出し合い、新発田市全体の発展のために「融和と飛躍」をもって、県北の中核都市・新発田市の発展に尽力することを誓っております。

終わりに、今後は、新発田市民の生活環境が今まで以上に充実されますよう、国・県はもとより各位からの一段と温かいご支援をお願い申し上げあいさつと致します。

新発田市議会を代表してあいさつ致します。

歴史と文化の香るまち、城下町新発田市と田園と温泉のまち豊浦町が、本日新たな夢に向かうことになりました。新発田の花「あやめ」と、豊浦の花「あじさい」、それぞれの花が今日を祝うごとく咲き誇っています。

昨年1月に合併推進協議会がスタートし、合併まちづくり計画の策定、数多くの行財政調整、住民説明会などを経て、11月には合併協定調印式が挙行され、本日7月7日、記念すべき合併の日を迎えたところであります。この間、ご指導いただきました関係各位に御礼申し上げますと共に、この合併の主役であります豊浦町民、新発田市民の皆様のご理解に心から感謝と敬意を表します。

ご承知のように、新発田市と豊浦町は溝口秀勝侯入封以来、新発田藩として歴史と文化を共有し、同じ生活圏域として、共に栄えてまいりました。

しかし、市と町が隣接するがゆえに、抱える課題も少なくないのも事実でありました。このような状況の中で、新発田市と豊浦町の両議会は、平成4年に議員協議会を発足し、積極的に相互の交流と研修を重ね、両市町の発展に寄与することを目的に、10年間共に歩み続けてまいりました。共通課題であります境界変更や新発田南バイパス建設の促進、主要地方道の改良促進などの解決に取り組んできたところであります。

この協議会の後半には、合併についての気運が高まり、その是非の論議を重ねた結果、共有する歴史・文化や同じ生活圏域として合併することがお互いのまちづくりの発展につながっていくものと確信したところであります。このことは、両議会も合併のお手伝いをできたものと思います。今日の良き日が新生「新発田市」の歴史の1ページに刻まれ、後世に永遠に残ることでしょう。

確かに本日の合併によりまして、30年間栄えてまいりました「豊浦町」という「名前」が昨日で消えました。さぞかし寂しさで一杯だろうと思います。長年愛着をもち、慣れ親しんだ名前が消えるのであります。万感胸に迫るものがあり、一言では表せないでしょう。そのことは、10年間共に交流を重ねた新発田市議会として、自分のことのように受け止めたと思います。

まちづくりは、何が市民のためになるのか、何を市民が求めているのか、見極めながら進める必要があります。自己決定、自己責任のもと、市民本位の市民参加による共創のまちづくりが求められています。さらに、この新しいまちづくりに当たっては、「和を以って尊し」のごとく、人と人との「のぎへん」の「和」を大切に、人と人との「くるまへん」の「輪」を広げ、人と人が話し合う「ごんべん」の「話」を尊重し、この3つの「わ」を基本にまちづくりを進めたら、きっと「素晴らしいまち」が誕生するものと確信しております。新発田市議会は、この「まちづくり」に果敢に挑戦致します。

今日の日のスタートが後世の批判に耐えるかどうかは、すべて、これからの努力にかかっていることは、間違いのない真実であります。そのことを胸に刻み、議会として新発田市の新たな「まちづくり」に邁進することを誓い、全市民のご多幸を祈念致しましてごあいさつと致します。

## 新発田市・豊浦町合併記念式典あいさつ

豊浦町議会議長 伊藤 久

新発田市・豊浦町の合併記念式典が、総務大臣並びに新潟県知事をはじめ、多数のご来賓の方々のご臨席のもとに挙行されるにあたり、旧豊浦町議会を代表しまして一言ごあいさつを申し上げます。

隣接しております新発田市と豊浦町は古来、人情文化が相通じ、社会、経済、生活等あらゆる面において密接な関係にありました。

長引く不況と少子高齢化が進行するなか、自己責任、自己決定を柱とする地方分権の推進や三位一体の改革など、いま地方自治体を取巻く情勢は、大きな岐路に直面しております。

将来にわたり明るく住み良い郷土の建設は、そこに暮らす者の共通の願いであり、次世代へ継承する貴重な財産であります。

本日、両市町の歴史的な合併に際して、地方自治の拡充強化と住民福祉の向上のため、協議を重ねてまいりました。

その間、片山新発田市長並びに新発田市議会議員をはじめ、新発田市の皆様より「編入される豊浦町」の心情を深くご理解いただき、寛容な対応と豊富な識見により、円滑な協議を進めることができました。

この場をお借りしまして、心より感謝申し上げます。

今後は、県北の中核都市を目指し、速やかな行政の一体化と建設計画の実現、さらには、次代の新発田市を築く基盤づくりに誠心誠意努力してまいり所存でございますので、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、本日ご臨席の皆様のご健勝とご繁栄を心よりお祈り申し上げますとともに、新たなまちづくりに、より一層のご支援を賜りますことを重ねてお願い申し上げ、あいさつとします。



## 新発田市・豊浦町合併記念式典祝辞

総務大臣 片山 虎之助（代理 総務大臣政務官 吉田 六左エ門）

本日、ここに、「新発田市・豊浦町合併記念式典」が挙行されるにあたり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

新生「新発田市」は、新発田市、豊浦町の合併により誕生したものでありますが、二つの市町は、地理的、歴史的にも経済、文化、生活の面においても深い結びつきを有しており、また、高齢者福祉事業やごみ焼却、公共下水道計画の事業を連携して実施してきました。

このたび、二つの市町が一体となって、住民の生活圏の広域化に対応するとともに、新生「新発田市」が第一歩を歩み出されたことは、誠に喜ばしい限りであります。

これもひとえに、住民の皆様をはじめ、新発田市と豊浦町の議会、各市町当局など、多くの方々が英知を結集され、真摯な努力を積み重ねてこられた賜物であり、深く敬意を表する次第であります。

私は、21世紀は地方の時代、とりわけ市町村の時代にしなければならない、この国を改革するには地方からしなければならないという強い信念をもっております。特に市町村は一番国民に身近な基礎的自治体です。その基礎的自治体である市町村が中心となり、権限や財源を持って、住民福祉の増進、地域活性化のために仕事をすることがこれからの地方自治であると思っております。

そのためにも、基礎的自治体である市町村の行財政基盤を強化することは不可欠であり、市町村合併により、規模、能力を強化することは必須の課題であります。

このたびの新生「新発田市」が、合併を契機として、住民の皆様をはじめ、市議会、市当局が一丸となって、総合的、一体的なまちづくりに邁進していかれることを切に願います。

終わりに、新生「新発田市」のなお一層のご発展と、市民の皆様のご活躍、ご健勝を祈念いたしまして、私の祝辞といたします。

本日、ここに新発田市と豊浦町の合併の記念式典を、こうして皆さんと一緒に迎えることができましたことを、心からお祝い申し上げるとともに、一緒に喜びたいと思います。

この度の合併につきましては、両市町間におきます十分な協議によりまして、長い間のご努力が実り、合意されたものでございます。合併協議にご尽力されました片山新発田市長さん、芹野豊浦町長さん、そして両市町の議会議員の皆様、さらに職員の皆様、そして住民の皆様の熱意とそのご努力に対し、深く敬意を表します。本当におめでとうございませう。

両市町は地理的にも隣接し、歴史も文化も共有してまいりました。医療、福祉、広域観光など、いろいろな面で行政区域を越えて、相互に深くかかわりあってきたわけでありませう。合併を契機に、この地域が一体性をよりいっそう高め、新生「新発田市」として発展されることを疑うことなく信じております。そしてまた、今日からの新たな出発の中で、皆様が手を携えあって努力されていく姿を、今、まぶたに描いているわけでありませう。

私ども県といたしましても、この合併が、より実りの多いものになりますように、全力をあげてご支援したいと思っております。広域的な観点に立った「まちづくり」をこれから目指し、一体的、効率的な生活基盤を整備され、恵まれた環境を活かし、そして恵まれた農業と調和を図りながら、都市の機能をさらに充実され、文化の薫り高い城下町の特性を活かしながら、また美人の湯「月岡温泉」など両市町の魅力ある観光資源が一体となって活用されるならば、さらなる観光振興も図られるだろうと期待しております。

ご承知のとおり、地方をとりまく財政状況が大変厳しい中でありまして、地方分権の着実な推進のため自己決定、自己責任の原則のもとで、自治体自らが政策を立案し、そしてその能力を高めながら、少子高齢化の急速な進展、住民ニーズの多様化・高度化に的確に対応していくということが、今、まさに求められております。そういう中で、今回の合併は、黒埼町と新潟市の合併に続く21世紀2番目の合併となります。そしてまた、平成17年3月という合併特例法の期限を1年数か月後に控える中で、大きな意味を持つ合併だと思ひます。自らの行財政基盤を強化しながら、さらに住民の福祉の向上を目指そうという、真に意義深いものと思ひます。県といたしましても、合併にあたりまして両市町の作成されました新市の建設計画におけます様々な事業について、これが着実に実施されるように支援することが、当面の県の役割であると思ひます。新生「新発田市」が、時代にふさわしい個性豊かな「まちづくり」を推進いたしまし、県立病院の建替えも進めておりますけれども、まさに県北の中核都市としてさらに発展され、住民の福利向上につながりますことを、心から期待しております。

終わりになりますけれども、本日より、この7月7日、七夕の日に生まれました新しい「新・新発田市」が、今後発展され、そしてここに集まりの皆様、新しい市民の皆様の健康を心から祈念いたしまし、お祝いの言葉とさせていただきます。

## 新発田市・豊浦町合併記念式典祝辞

衆議院議員 稲葉 大和

ご案内をいただきました、稲葉大和でございます。本日ここに新発田市、豊浦町が合併し、そして各界、各層のお歴々ご出席のもと、盛大な記念式典が挙行されることを、心からお喜び申し上げます。片山市長さん、芹野町長さんのお話を感慨深く承っておりました。特に芹野町長さんの結びの、「元豊浦町長、芹野秀夫」この言葉を聞きまして、町長さんご自身、今日に至るまで、本当に万感胸に迫るものがありになるだろうと、つくづく私も同じ気持ちであります。また、今日お越しの、それぞれの各市町村長さん、市議会議員の方、各界の方々におかれましては、この次は私たちの地域の番かな、こういう決意をもって臨んでこられたかと思えます。

今、市町村合併が推進され、そして国においてもその要望を強く求めている中で、伺うところによれば、平成17年3月には3,300全国市町村の中から、約半数の1,700の市町村にまとめられる、こういう推測が出ております。それぞれのご尽力に、深甚なる敬意を表する次第であります。

しかし、各地方自治体が求めているのは、合併といった事実ではなくて、もっとその先にあるといいますか、一体として求めている地方分権、これがまさに各地方の方々の願いであります。それには、いわゆる三位一体という権限の委譲、あるいは財源の確保、特に各地方公共団体における財源、これには私たちも一生懸命努めていかなければならないと思います。幸いにして、今日は吉田六左エ門総務大臣政務官がお越しでありますので、吉田政務官を先頭に私たち国会議員は、皆さんが望んでおられる三位一体を確実に実現するよう努めてまいります。

これからの新潟県は、さらに大きく飛躍しなければなりません。そのモデルとして、今日、豊浦町と新発田市が一緒になられたことは、まことに喜ばしいことでございます。同時にお互いがお互いの良いところを認め合って、伸ばしあって、新しい新発田市が更に更に飛躍されますよう、心からご祈念を申し上げ、一言お祝いのごあいさつをさせていただきます。本当におめでとうございました。

## 新発田市・豊浦町合併記念式典祝辞

新潟県議会議長 西川 勉（代理 新潟県議会議員 石井 修）

新発田市・豊浦町合併記念式典の開催にあたり、県議会を代表いたしまして一言ごあいさつを申し上げます。

皆様方には、日頃から県北地域の振興・発展と住民福祉の向上に多大なご尽力をいただき、心から感謝申し上げます次第であります。

ご承知のとおり、地方を取り巻く財政状況が厳しさを増す中で、地方分権の着実な推進のため、市町村には「自己決定・自己責任の原則」のもと、自らが政策を立案する能力を高め、住民ニーズの多様化・高度化や少子高齢化の急速な進展に的確に対応していくことが強く求められており、その有力な手段として合併に向けた検討が全国的に進展しております。

県内でも、合併協議会や研究会が設立されるなど、それぞれの地域の将来を見据えた合併論議が展開されているところであります。

このような中であって、これまでも新発田市と豊浦町は隣接する自治体として、行政の結びつきが強い中、さらなる発展を願って、県北地域の拠点都市づくりをめざし合併に向けた取り組みを積極的に進めてこられ、本日ここに、めでたく合併記念式典を迎えられたわけであります。

新発田市と豊浦町の両市町は、結びつきが強く、この地域に暮らしを営む人たちは、同じ歴史と文化を共有し、経済活動はもとより通勤・通学や消費活動などの日常生活圏、文化や医療・福祉、広域観光等広範な分野に渡って行政区域を越え相互に深く関わり合い一体となった地域社会を形成してまいりました。

今後は、新市建設計画にあるように、県北の拠点都市としての魅力づくりを目指し、また、両市町の個性を活かしつつ、地域全体の魅力を最大限に発揮できるような都市づくりをぜひ目指していただきたいと考えております。

県議会といたしましても、この意義ある合併による新たなまちづくりを積極的に支援してまいりますとともに、今後とも、県政の発展と活力ある豊かな地域づくりを目指し、各種施策の推進に鋭意努めてまいる所存であります。

どうか、皆様方におかれましても、本日の式典を契機として、新たな市の建設と住民福祉の向上に、なお一層ご尽力くださるようお願い申し上げます。

終わりに、本日お集まりの皆様方のますますのご健勝とご活躍を祈念申し上げまして、あいさつといたします。